

2003年
(平成15年)
10月1日 発行

J 富山たけし発行所 代表 堀 正
連絡先 八丈島八丈町三根 1618 Tel. 04996-2-1600
メール takeshi-kai@kmym.com
ホームページ <http://www.kmym.com/takeshi/>

八丈を変えるニュース

第4号



台風
15号

転覆した漁船の引き上げ作業（9月23日 神湊漁港）

9月22日の深夜、台風15号が八丈島を直撃しました。最大瞬間風速60Mの暴風雨がうなりを上げ、停電も重なって暗闇の中での恐怖の一夜を過ごしました。明けて見ると、倒木が島内のいたる所で道をふさぎ、屋根をはがされた家も数多く、神湊漁港では漁船が転覆していました。電柱が倒れてぶら下がった電線、全壊した民家、ひしゃげたパイプハウス…。収穫前の農作物もほぼ全滅したようです。

22日に小中学校、高校は休校し、停電となった商店では冷蔵庫の商品が廃棄処分となり、水源のポンプが停電で止まったために広範な地域が断水に見舞われました。水が出なければ食事も作れず、トイレも流せません。特に病院や老人ホーム、宿泊施設や飲食店などには大きな影響があったようです。こうして住民生活の混乱は数日にわたって続きました。

この台風の被害総額を集計できるまでには時間がかかるでしょう。いずれにしろ1975年（昭和50年）の13号台風以来の大きな爪痕を残しました。これから、都や国にも支援を仰ぎながら、町民一丸となって、復旧に全力を上げて取り組まなければなりません。

ブロードバンド へ

8月4日に八丈島を訪れたソフトバンクの社長の孫正義氏は、来年4月までに八丈島にADSLを提供すると言明しました。「出来ない理由などいくらでも言える。でも、どうやったら実現できるかを考えるのが私たちの務めだ」と熱く語った孫社長の言葉は島のユーザーたちに大きな感激を与えました。するとそれまで何やかやと実現を渋っていたNTT東日本も、来年中に伊豆七島全体にADSLを引くと、9月16日に八丈町に伝えてきました。NTTの豹変ぶりは釈然としませんが、とにかく、待望のブロードバンド環境が整うことを歓迎したいと思います。

町も新しい環境でのサービスを作っていくために新たなセクションを設置することになりました。是非とも住民の要望に応えられるサービスを、住民と一緒に作り上げていって欲しいものです。

暑ければ涼は来る

今年の夏は台風の影響はそれほどありませんでしたが、9月になってきびしい暑さがやってきました。早くすずしくなって欲しいと、うんざりした方も多かったでしょう。

そうした中で、例年なら夏の観光シーズンが終わって閑散となる時期に、底土の港には連日多くの若者たちがかめりあ丸から降り立ちました。9月上旬は毎日平均160人



来島客で賑わう底土港。(9月13日)

位が来たそうです。そして、その秘密は、どうやら東海汽船の企画した、往復乗船券と1泊2日を合わせて9800円という、期間限定のサービスパックが若い人たちの人気を呼んだようなのです。だから、9月の酷暑はこのお客さんたちへの特別サービスと考えれば、ガマンのしがいがあつたかも知れませんね。

東海汽船のこうした営業努力は今後も続けて欲しいものですね。そして、運賃の引き下げが、来島者数の増加につながることを、エアーニッポンも学んでいただきたいと思います。

聿の評 - レポート (4)

主な議会活動 (2003年4月～9月)

- (1) 5月 8日 全員協議会
- (2) 5月13日 平成15年度要望活動 (都庁、総務省等)
- (3) 5月29日 臨時議会・全員協議会
- (4) 6月 6日 **第2回定例会**
- (5) 8月 1日 臨時議会・全員協議会
- (6) 8月5、6日 議会広報研修会 (全国町村議員会館)
- (7) 8月 8日 修景美化審議会
- (8) 8月18日 経済企業委員協議会
- (9) 9月9、10、12、26日 **第3回定例会**

また、この間4月に青ヶ島、5月に御蔵島、7月には神津島を個人的に訪れ、ゴミ処理の状況など行政状況を視察しました。さらに7月には養和会の視察に同行し、関東近辺の先進的な高齢者介護施設を見てきました。

◆最終処分場に議会の主張を反映できず

管理型処分場建設の構造や建設地をめぐる、町議会で白熱した議論が行われてきましたが、町長は6月の定例会で、一部事務組合の計画案に沿ってオープン型施設を中之郷地区に建設すると言明しました。しかし、中之郷住民からは強い異論も出ています。今後は、不安を訴える住民の主張に誠意を持って対応し、住民の理解を前提にして建設できるよう、私自身もいっそう努力を続けていくつもりです。



9月になってから異常な猛暑が続く中、上着を脱いで“熱い”質疑を繰り広げた。

◆檜小・中小の統合を町長が表明

檜小・中小の統合問題では、これまで教育委員会から「統合すべし」との意見書が出されていたものの、町長は住民の声を聞きながら判断するとして、自らの方針は示していませんでした。そこで9月10日の定例議会で「統合をどうするのか。町としての具体的な案を提示した上で町民の意見聞くべきではないか」とただしたところ、町長はようやく「統合はやむを得ないと考えている」と、初めて自分の見解を示しました。ただ、どこにどのような校舎を建てるかなどについての提示がなかったので、私は早期にいくつかの具体案を地元の住民に示した上で、論議を深めることを要求しました。

◆第2回定例会（6月6日）

（1）5月に行った定例要請行動に関して

①ブロードバンドの要請に対するN T Tの回答を受けて町のI T化対策に町はどう取り組むか。

答弁（総務課主幹）財源確保の問題と合わせて情報化計画の策定が必要である。総合開発審議会の中に特別部会を設置すべきだと思う。I T推進室の必要性についても検討する。

②各課題に対する要請に対して、都幹部の対応は厳しく、むしろ町の努力を求められたと思うが、町長はどう受け止めたか。

答弁（町長）都も国も、すぐには「はい」と言わない。大臣室には全国からの要望書類が山積みになっている。長年の継続の中で実るわけで、成果はすぐには出ない。議員の皆さんも協力をお願いします。

（2）住基ネットの本格運用と国民のプライバシー保護は（省略）

（3）管理型最終処分場建設は中間処理システムを前提に（省略）

◆第3回定例会（9月9日）

（1）「町民が住みやすいと感じる町づくり」は進んでいるか

中央政界において「マニフェスト」という言葉が注目されている。それは、政策目標を設定し、それを達成できたかどうかをきちんと検証し、その結果責任をとる政治手法である。浅沼町長は「町民が住みやすいと感じる町づくり」を公約に掲げたが、今の八丈町は決して「住みやすい」と感じられる状況でないことは、不景気が続き、今年になって人口減少が加速していることから明らかだ。だからこそ「町民が住みやすいと感じる町づくり」は、単なるお題目であってはならず、具体的にそのための施策を企画し実行していくことが、町長の重大な使命であるはずだ。

①「住みやすいと感じる町づくり」のためにどんな施策がすすめられたか。

答弁（総務課長）町民憲章にかかげた5つの項目にそって町づくりを進めている。それはゴミのリサイクルなどの環境政策、バリアフリー住宅を建設する福祉政策、浮き魚礁設置による産業振興などに具体化されている。

②その施策の進捗状況と、今後の展望をマニフェストとして具体的に示せ。

答弁（総務課長）事業の年次計画に提示してある指針を基にして社会情勢を見据えながら提案していくので議会の皆さんの協力をお願いします。

（2）漁業再生のためにどのような対策をとるのか

八丈島漁協の再生計画は組合員、職員双方にとって極めて厳しいものに

なっている。漁協の経営を圧迫している原因は、魚が獲れない、魚価が安い、そして漁協の赤字体質という3点に絞られるが、

①不漁の原因についてどう認識し、解決のために対策を講じているか。

答弁（産業観光課長）不漁の原因は自然環境の変化や漁業技術の向上による資源の減少などが考えられる。資源の保護と回復に向けての制度づくりや、「作り育てる漁業」の支援、浮き魚礁の設置などを計画している。

②魚価の低迷を打破するために流通の改善に取り組む用意はあるか。

答弁（産業観光課長）インターネットでの販路拡大、イベントと抱き合わせた朝市などの地場流通について検討する。

③膨大な負債にあえぐ漁業組合の財政状況と再建の展望を示せ。

答弁（産業観光課長）自立した漁協への転換を目指す「再生5カ年計画」を東京都などの指導を得て着実に実行していく。



（3）八丈航路の将来ビジョンを示せ

T S Lの小笠原就航を2年後に控え、町長はおがさわら丸の八丈島就航のための港湾施設の拡充を東京都に求めると述べてきているが、

①おがさわら丸の八丈就航にどのようなメリットがあるのか。

答弁（空港港湾対策室長）おがさわら丸は大型なので輸送能力もあり就航時間の短縮も可能なので大幅な輸送の改善が期待できる。

答弁（町長）おがさわら丸については、東海汽船からの要請があって、八丈就航を都にお願いしている。

②T S Lへの小笠原就航の後も年一度の八丈島寄港は存続できるのか。

答弁（空港港湾対策室長）T S Lのドッグ入りの時の代船を利用するのも一案かと思う。

③海上交通も高速化が進む中で、八丈航路を高速化する計画はないか。

答弁（空港港湾対策室長）都で検討中だが、海上輸送の高速化・経済性を求め、安定した輸送体制確立へ向けて関係者に働き掛けていく。八丈島は沿海ではないので、ジェットフォイルを就航させるのはむずかしい。

デポジットの、 誰も書かなかつた総括 小宮山万里子

デポジットが終わった。役場広報やごみかんニュースなどでは、環境問題に一定の成果あり、などと煮え切らない総括をしているが、実現できなかったのだから、はっきり言って失敗である。失敗の原因は、全島参加を実現できなかったからではなく、全島参加の必要性すら感じなかったデポジット事業そのものにある。

そもそも、このデポジットはなぜ始まったのか。東京都が八丈島に予算



をくれたからである。なぜ八丈島に？ちゃんこめのアルミ缶回収の実績や地熱・風力発電などから環境問題に熱心なイメージがあったからなどといわれているが、真意はいずこに。確かなことは、島の内発的なものから始まったのでないこと。これが失敗の原因その1であり、すべてと言ってもいいくらい。

その2は、八丈島が候補地になった理由（と思われるもの）そのものにある。アルミ缶に限定されてはいても、独自の回収事業体があるということは、こういう場合マイナスに作用するのよね。自分たちとは違う新たな回収方法は、自分たちの回収方法が否定されたような、敵対するような、そんな感じを受けてしまうものなんだな、ウン。一番歓迎してくれそうな人たちの心からの賛同を得られず、すでにカンの回収方法が存在するということが、事業の意義をわかりにくくした。

その3は、1とも関わりがあるが、事業主体の行政・町・役場が意欲を持たなかったこと。デポジットの意義は町職員に少しも理解されなかった。リサイクルシステムの一つとしか考えなかった。しかもこのことをデポジットをやめる段階で白状したのだよ。まあ、そうじゃないかとは思っていたけどね。それなら、わざわざ、お金と手間暇かけて取り組む必要などなかったじゃないの、と言いたくなるね。取りかかる際にもうちょっと制度そのものを勉強してくれないかな、これからは。

しかし、何でこんなにデポジットは理解しにくいのか。環境問題への誤解も大きい。環境をきれいにしようとか自然を大切に、と言うことに反対

する人はまずいないという思いこみ。みんな環境を大切にしたいんだ、みんなを信じようよ、と「善意」の人は言う。捨ててある缶を拾うのはきれいにしたい気持ちからなんだ、デポジットの10円のためではないんだ、と「善意」の人はまた言う。いや10円が惜しくて捨てちゃう人も捨てなくなる、なんて反論しても、デポジットは性悪説に矮小化され、性善説に負けてしまう。飲料缶やペットボトルの10円上乗せなんてちゃちいものではなく、車とか家電製品に高額のデポジットをやったらわかりやすかったのかもしれない。かくして企業の製造責任にまで行き着くことなく、初っぱなの、拾うだ、捨てるだ、集めるだの議論の段階で終わってしまった。

「ごみかん」や「事業者の会」が登場し、住民の側からの運動と意義とを打ち出したりして見えにくくなったけれど、所詮これも「公共事業」だったわけだ。お上から言いつけられ、お金を与えられ、期限内に予算を消化できればOK。そこには失敗も成功もない。やる人間も年度が変われば変わってしまうのだから責任の取りようもない、か。7月に行われた住民説明会はひたすらペットボトルリサイクルの話題に終始した。デポジットの成果はペットボトルの回収にあり、ということですか。誰かね、こんなシナリオを作ったのは？

こういう行政の無責任時代も変わらざるを得なくなる。地方自治体は、仕事の中身を自分で考え、予算を作っていかなければならない。政策は八丈の将来へのビジョンを持たなければ決まらない。行き当たりばったりの事業にはお金をくれないばかりか、自治体としての能力なし、と、どっかの自治体にくっつけられてしまうかもしれない。少なくとも八丈島は、全国から注目されたデポジット事業で一花咲かせることも出来ず、売り込む絶好の機会を自ら葬り去ってしまった。今さら「スローアイランド」などと実体のない二番三番煎じの標語を掲げて、八丈島よ、一体どこに行こうというのか……。

「八丈を変えるニュース」 eメール版もどうぞ

- このニュースは本紙の他にインターネットで配信するeメール版もあります。eメール版はテキスト形式のメールマガジンで、速報性があるニュースです。
- ホームページの更新状況もお知らせします。
- eメール版は以下のページからお申し込み下さい。

<http://www.kmym.com/takeshi/supporter/magareg.htm>

高速船の可能性は？

去る7月に神津島を訪れた時利用したジェットフォイルは、昨年4月から大島、新島などに就航しています。ほとんど揺れず、とても快適な高速船で、東京を出て途中大島に寄港しながら、神津島に3時間かからず到着できました。また2005年春から小笠原に通うテクノスーパライナー（TSL）は、



神津島に着岸しようとしているジェットフォイル。

これまで26時間かかった就航時間を一挙に16時間に短縮するそうです。

ところで、昨年から八丈島に通う「かめりあ丸」は、ジェットフォイルの登場で

余分になった船です。小笠原にTSLが就航したら、今度はまた、「おがさわら丸」を払い下げようとの計画が聞こえてきます。こうして八丈島には今のところ高速化の見込みがないのですが、これでいいのでしょうか？

ちなみに、ジェットフォイルなら東京－八丈間を約4時間で結べるので、1日2往復も不可能ではなく、東京以外の都市や他の島にも航路が開け、大型船をシーズンオフにがらで走らせるより、ずっと効率的に運行できます。荒れやすい八丈には不向き、との危惧も聞かれますが、船体が海面から浮上して走るのので、むしろ普通の船より波には強いのです。現に、親潮海流を横切り韓国・釜山と福岡の間213キロを2時間55分で結ぶジェットフォイルは、過去5年間の就航率が97%にも達するそうです。

将来の八丈航路の高速化も、今から検討すべきだとは思いませんか？

小宮山たけし後援会 会則（抜粋）

- この会は「小宮山たけし後援会」と言います。
- この会は、小宮山建（たけし）とともに、住みよい町づくりのための政治・社会・文化活動をすすめます。
- この会の目的を達成するため、政策を研究・立案し、その宣伝・普及をすすめます。
- この会の会員は、本会の趣旨に賛同する者をもって構成します。